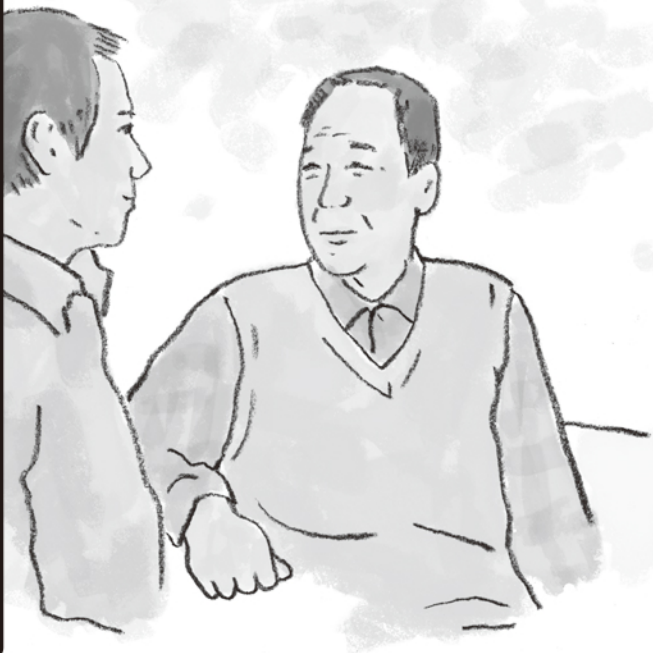


## 家族と歩むことで 「幸せのかたち」が 見えてきた。

東村山教会 岡田匡司さん

岡田さんは、結婚後、3人の子供に恵まれました。しかし、いつも仕事優先で家族との時間を大切にしなかった。長男が小学6年生頃から引きこもりになって、仕事を理由に目をそむけていた。成人を過ぎても引きこもりは続き、心身ともに不安定な状態から、苛立ち、暴れるようになった。ある時、ベランダから飛び降りようとしたところを夢中で抱き留めると、長男は「ごめんなさい…」と何度も謝る。自分の存在が家族に迷惑をかけていると自責の念にかられていたのだ。岡田さんは、父として何もしてこなかったこと、自分の心の弱さに気づかされ、「父さんこそ悪かった…」と心から悔いた。この日を境に、長男は自ら望んで病院での治療を始め、徐々に心の健康を取り戻すことができた。岡田さんは、勤めていた会社を退職し、家族との時間を大切にできるよう、別の仕事に就く。いま、家族とすごす団樂のなかで初めて、幸せのかたちを見つけた。



## 大きな願いに生きる

私たちは、何かにつけ人と比べて、嫉妬や自己否定、あるいは驕慢きょうまんなどの感情が芽生えることが多くあります。ただ、スポーツでも勉強でも、趣味でも仕事でも、人が向上する姿に刺激を受けて発奮はつぷんし、よりいっそう自分を磨くということがあるのも事実でしょう。その意味では、比べることに意味があるといえそうですが、目を外にばかり向けず、「自分にとつてほんとうに大事なことは何か」と、自分の内に目を凝らすことを忘れないようにしたいものです。

ある仏教者は、「大きな願いに生きる以外、ほんとうの自分に育てる道はない」といわれています。ですが、「大事なこと」の二つがここに示されているように思います。「大いなる願いに生きる」といっても、わかりにくいかもしれませんが、たとえてみれば、自他の仏性ぶつじょう礼拝らいはいの心を深めさせていただくのもそれに通じるといえます。その心で他を深く敬つやまうとき、周囲には和やかな空気が生まれることでしょう。

# 立正佼成会